ニッスイグループ取り扱い水産物の資源状態の調査結果

日本水産株式会社

ニッスイグループが目指す姿

『2030年ニッスイグループの調達品についての持続性が確認されている』

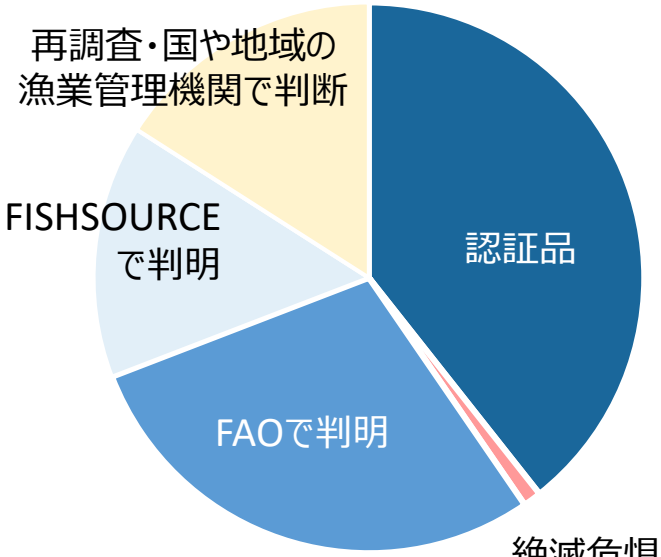
取扱水産物の資源状態等の調査

- 対象会社　：ニッスイ、国内グループ会社28社、海外グループ会社16社 計45社
  対象期間　：2016年（1~12月）の調達
  調査内容　：魚種名（学名）、漁獲海域（FAO区分）、原産国、重量（原魚換算）

- 調達数量　：約160万ﾄﾝ（原魚換算重量）→ 世界漁獲量の1.6%相当
  取扱魚種　：約450学名
  漁獲海域　：FAO海域 18カ所
  原産国数　：約80カ国
  構成比　　：天然魚　93%
  　　養殖魚　7%

- 調達した天然水産物の資源状態を分析

Step 1 **認証品 絶滅危惧種** ▶ Step 2 **FAO＊1** ▶ Step 3 **FISHSOURCE＊2** ▶ Step 4 **漁業管理機関**

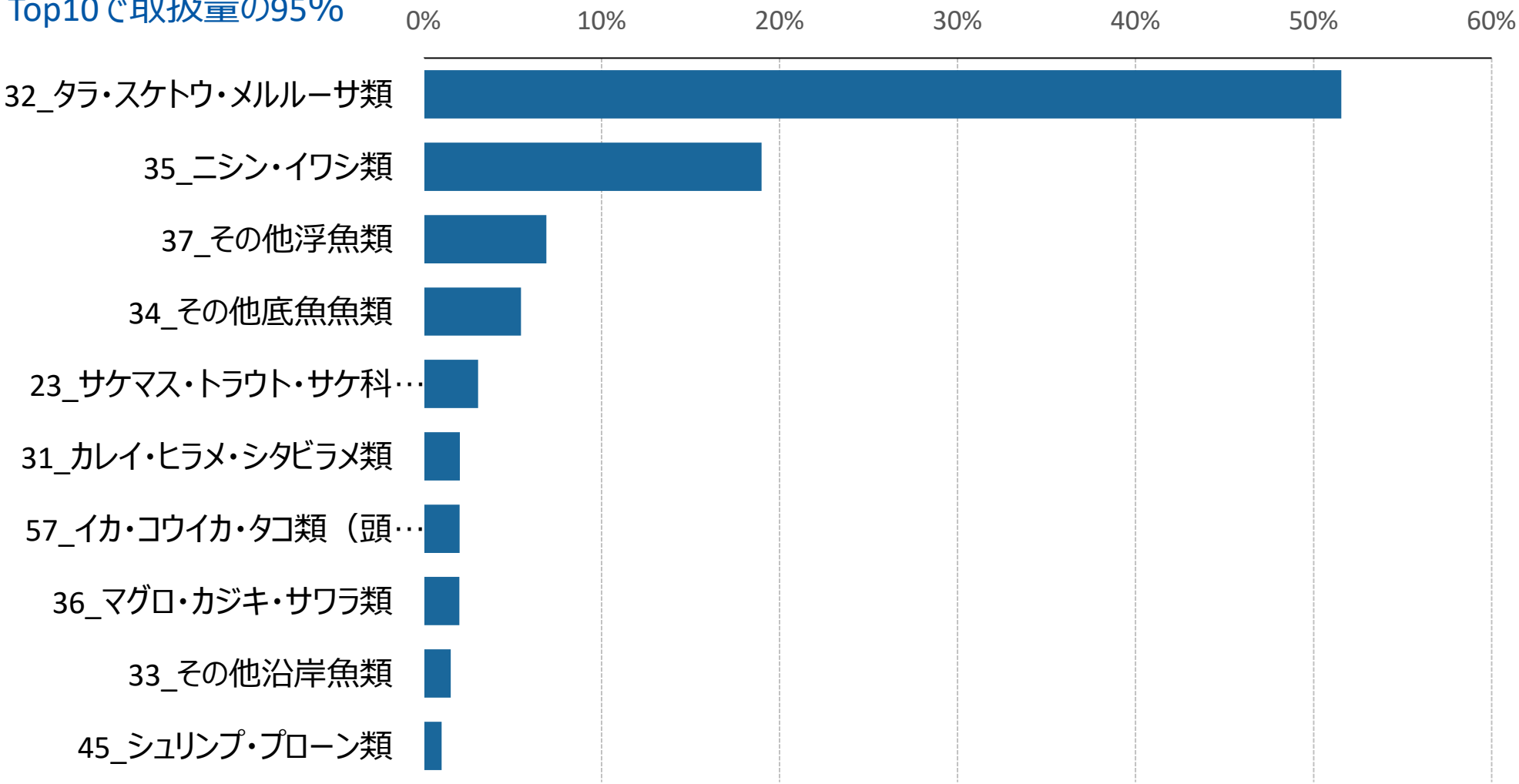


＊1　FAO：Food and Agriculture Organization of the United Nations（国連食糧農業機関）
＊2　FISHSOURCE：水産資源を評価する国際的なデータベース

2016年 ニッスイグループ取扱い魚種

取扱量の多い魚種Top10（ FAO-ISSCAAP分類による天然魚、除く魚油・魚粉）

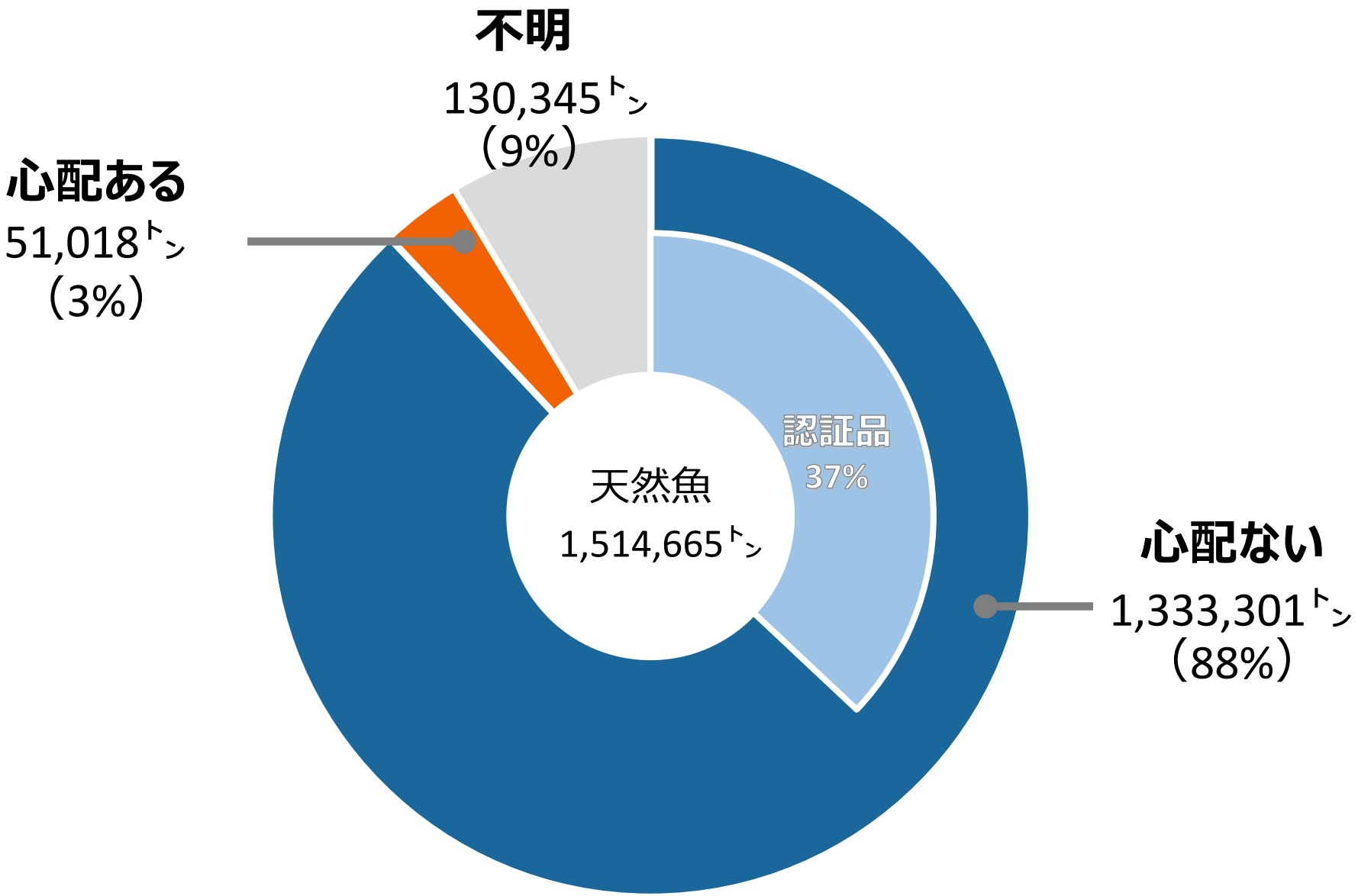
Top10で取扱量の95%



*34：大西洋あかうお、たちうお、青ひらす、沖さわら、キングクリップ、オレンジラッフィーなど

*37：さば類、ぶり類、あじ類 など

取扱水産物の資源状態


不明
130,345ﾄﾝ
（9%）
心配ある
51,018ﾄﾝ
（3%）
認証品
37%
天然魚
1,514,665ﾄﾝ
心配ない
1,333,301ﾄﾝ
（88%）

認証を取得している水産物の取り扱い

天然/養殖	認証名	ISSCAAP分類	認証比率
Wild（天然）	Dolphin Friendly, FAD free	36_マグロ・カジキ・サワラ類	天然魚取扱量の 37% （うちMSC:36%）
	MSC	32_タラ・スケトウ・メルルーサ類	
		35_ニシン・イワシ類	
		34_その他底魚魚類	
		31_カレイ・ヒラメ・シタビラメ類	
		23_サケマス・トラウト・サケ科魚類	
		45_シュリンプ・プローン類	
		55_ホタテガイ類	
		37_その他浮魚類	
		43_ロブスター・イセエビ類	
		56_ハマグリ・アサリ・クラム類	
		54_イガイ・マッセル類	
		その他加工品等	
	RFM	42_カニ類	
		44_コシオリエビ・タラバガニ類	
	天然認証品 合計		**558,945**
			1,514,665

＊Dolphin Friendly, FAD freeはマグロ集魚装置を使用せずイルカ混獲を防ぐ認証ラベル

＊RFMはアラスカンシーフードマーケティング協会が構築した水産エコラベル「責任ある漁業管理」（RFM）認証ラベル

＊2017年 世界の天然魚漁獲量に対する認証漁業の漁獲量の割合は12.5%

絶滅危惧種Ⅰ類の取り扱い

IUCN（国際自然保護連合）のカテゴリーCritically Endangered （CR） 、WWF呼称「近絶滅種」、環境省呼称「絶滅危惧種IA類」及び Endangered （EN）「絶滅危惧種」「絶滅危惧IB類」

（重量：ﾄﾝ）

取扱会社	Red List 評価	魚種（学名）	重量	評価	備考
Japan	CR	南まぐろ（Thunnus maccoyii)	114	心配ある	資源回復計画あり
	EN	なまこ（Apostichopus japonicus）	20	心配ある	資源管理あり
Denmark	CR	EEL（Anguilla anguilla）	0.4	心配ある	オランダESF養殖
	EN	HALIBUT WHITE（Hippoglossus hippogloss）	9	心配ある	取り扱い見直し
	EN	SKATE（Leucoraja Ocellata）	115	心配ある	北米東海岸の規制に基づいた漁獲

日本における対応

①南まぐろ ：南まぐろ保存管理委員会が科学的調査に基づき、総漁獲量（TAC）及び締約国ごとの割り当て量を設定している。輸入に当たっては水産庁の指導を遵守しており、取り扱いを継続する。

②なまこ ：各県の資源管理の対象であり、休漁日設定、サイズ制限、種苗放流、漁場造成等 の管理措置がとられているため現状程度の取扱いを継続。但し、資源枯渇が懸念される状況になれば、取扱いを漸次削減・中止する。

デンマークにおける対応

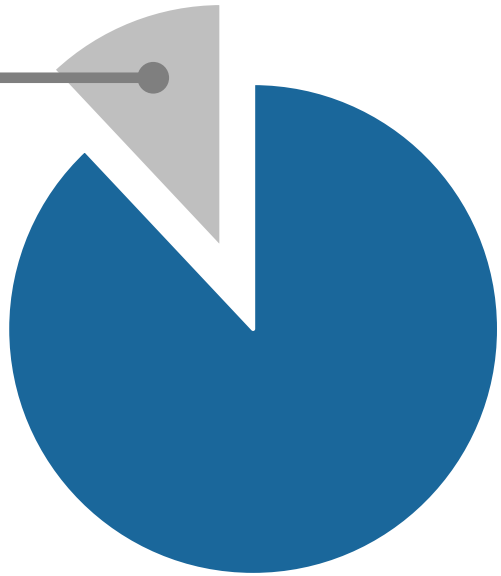
絶滅危惧種Ⅰ類は取扱わない。但し、お客様からの要望があった場合、保護・管理を確認し継続する

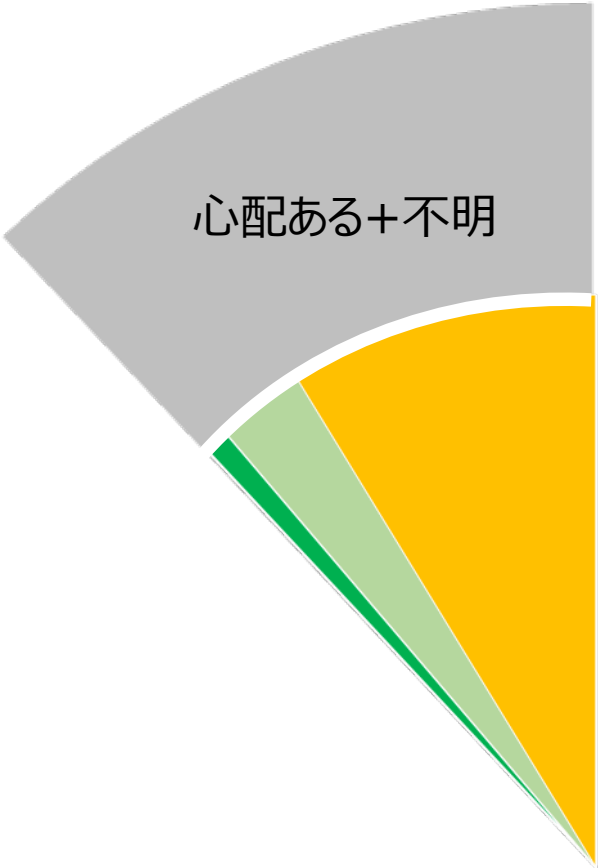
再調査（心配ある･不明）： 漁業管理の確認

原産国	魚 種
不明	魚粉･魚油
China	タチウオ
India	タチウオ
Ecuador	アンチョビ
Thailand	いわし
Argentina	HAKE
Thailand	マエソ
Peru	アンチョビ
Taiwan	めばち･きはだ
China	HADDOCK
Ecuador	SHRIMP
China	Atlantic Cod
Taiwan	めばち
Thailand	イトヨリダイ
Vet Nam	ピンク･ホワイト エビ
Thailand	サッパ
India	エソ
China	メチカ
Taiwan	めかじき
India	ヒメジ
Namibia	Hake Capensis
USA	Atka Mackerel

購入した
配合飼料
の原料

心配ある+不明
181,363ﾄﾝ
（12%）





- 資源回復計画あり
- 網目規制や
  操業期間の制限あり
- 漁業管理の有無が不明

課題と対応

課題1
資源回復計画や網目規制や操業期間の制限が確認できなかった調達資源

対応

① 資源回復計画や漁獲規制について再度確認しながら、各資源の最新情報を注視する

② 漁業国に資源管理を科学的に行うようSeaBOS（Seafood Business for Ocean Stewardship）を通じて提言する

③ 漁獲国の政策、特にIUU漁業や奴隷労働への対応を注視する。

④ GDST（Global Dialogue on Seafood Traceability）の実現に協力する

課題2
配合飼料の原料である魚粉・魚油のトレサビリティ開示

対応

先進的な配合飼料メーカーの協力を得て、その取り組みを学ぶことで対応策を講じる

結果のまとめ

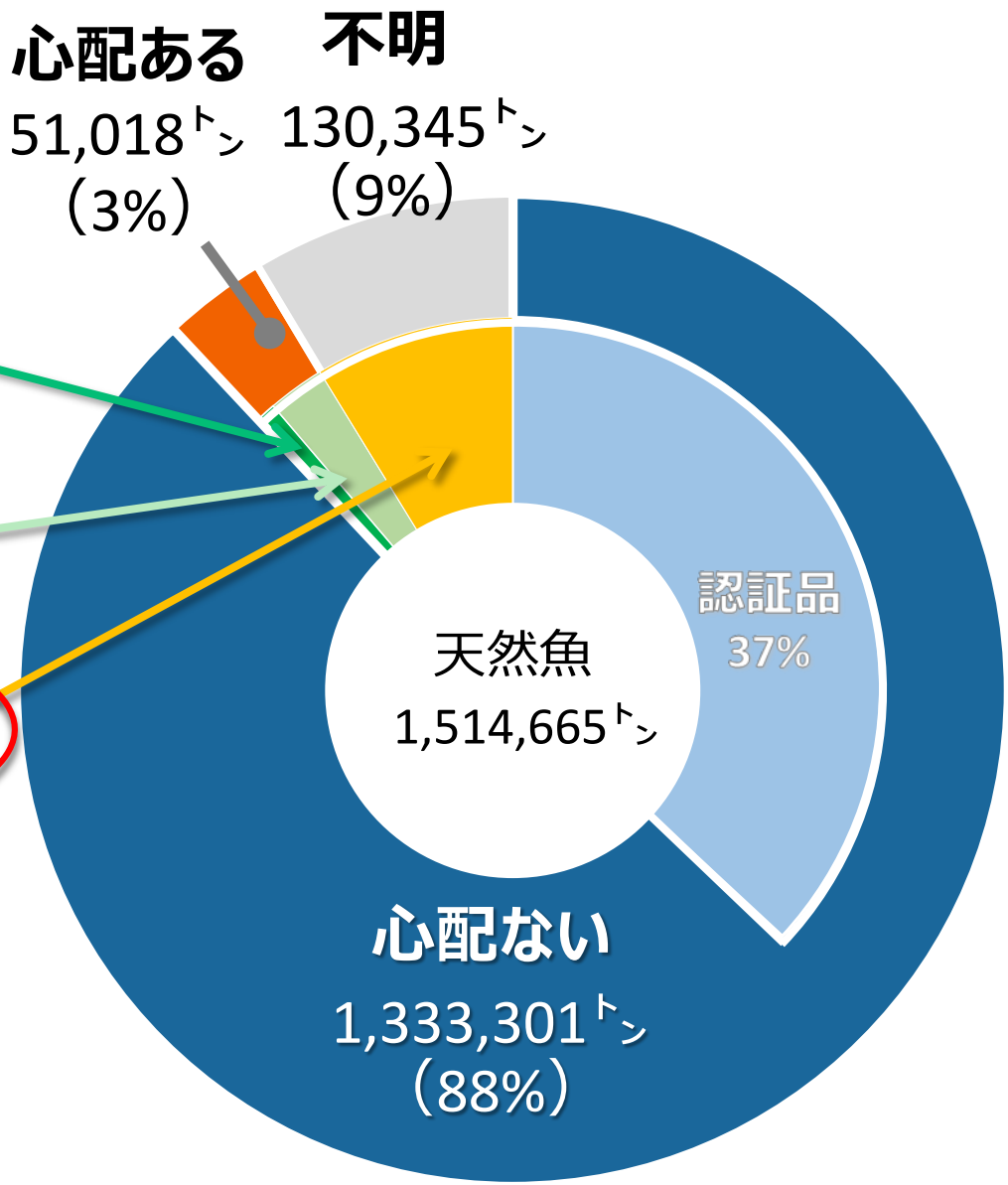
心配ある・不明のうち

資源回復計画あり
10,878トン（0.7%）

資源調査ないが網目規制や
操業期間の制限がある
37,820トン（2.5%）

漁業管理の有無不明
132,666トン（8.8%）

2030年
ゼロ実現！



Global Links